



独立行政法人国際協力機構 四国支部(JICA 四国)
TEL.(087)833-0901(代表) FAX.(087)837-0747
URL: <http://www.jica.go.jp/shikoku/index.html>
☆ 内容についてのお問い合わせ☆
JICA四国 業務課 研修員受入事業担当 富谷、瀬戸
e-mail: skictpr@jica.go.jp, Tomitani.Takeshi@jica.go.jp

サッカーW杯前に日本とカメルーンが連携！ アフリカ対象の教育改善研修を徳島県で実施！

JICA 四国は、カメルーンを中心とするフランス語圏アフリカ諸国5カ国12名を対象に、鳴門教育大学と協力し、研修を実施します。期間は、1月18日(月)から4週間です。本研修では、現地の小学校や中学校の教師の質を向上させるための研修制度(校内研修)の導入/改善を主な目的としています。

《 研修準備のために大学の先生がカメルーンを訪問 》

本研修は、昨年、第1回目を実施しましたが、研修内容の改善などを目的に、鳴門教育大学の小澤准教授(教員教育国際協力センター)が、サッカーワールドカップ出場で沸くカメルーンを訪問し、日本での研修の活用方法や初等教育省の戦略について大臣や研修員を交えて話し合いました。

《 カメルーンと協力し研修を実施します 》

カメルーンにて得た情報や資料を基に、「日本とカメルーンがいっしょに作る研修」が、いよいよ来週からスタートします。

- ① 具体的には、**2月3日(水)**に、小澤准教授が、カメルーンの小学校の授業風景を撮影したビデオとカメルーン研修員から提供された教科書などカメルーンから提供された資料を活用して、授業改善のための実践的な講義/実習を行います。
- ② また、研修員からの要望を反映させた教育現場の視察も複数予定しています。里浦小学校では、2月1日(月)と2日(火)の二日間の視察を予定しており、授業を観察し、小学校の運営方法や現職教員の研修方法について学びます。また、鳴門教育大学附属小学校(1月22日(金))、徳島県立総合教育センター(1月29日(金))、などの視察も予定しています。
- ③ 昨年度帰国したカメルーン研修員が行っている校内研修の取り組みを、他国の研修員の帰国後活動の促進のために、カメルーン研修員が発表することになっています(2月4日頃を予定)。

研修の詳細については別紙をご覧ください。

別紙：研修詳細

1. 研修名：地域別研修「仏語圏アフリカ INSET 運営管理（校内研修導入、改善支援）」
2. 研修期間：2009年1月18日（月）～2月12日（金）
3. 参加国（人数）：カメルーン(4)、コートジボワール(3)、ジブチ(1)、セネガル(2)、ブルンジ(1)、 合計12名
4. 研修対象者：初等中等教育の現職教員研修を担当している教育指導主事及び教員
5. 主な研修内容
 - ・ 開講式（場所：鳴門教育大学）、徳島県立教育委員会 訪問（1月18日（月））
 - ・ 鳴門教育大学附属小学校 生徒中心型授業の視察（1月22日（金））
 - ・ 徳島県総合教育センター 視察（1月29日（金））
 - ・ **里浦小学校 授業及び校内研修の視察**（2月1日（月）、2日（火））
 - ・ **小澤准教授による授業改善のための講義/実習**（2月3日（水））
 - ・ 校内研修について現職教員とのディスカッション（2月3日（水））
 - ・ カメルーン研修員による活動報告（2月4日頃を予定）

6. 研修の目的及び背景

今回対象としている国々では、児童の就学率が徐々に向上している一方、教育の質の確保が大きな課題となっており、教師の質の向上が急務の課題となっています。今回の研修では、JICA 四国と鳴門教育大学が協力し、学校レベルで実施可能な現職教員研修（校内研修）の導入/改善を目指しています。参加する研修員は、母国に帰国後、校内研修の導入/改善に向けた取り組みを進めます。

なお、日本は、2008年5月に日本（横浜）にて開催された「第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）」において、基礎教育のアクセスと質の向上を、今後5年間に取られるべき措置として挙げており、ODAの実施機関であるJICAも、アフリカでの教育支援の強化に取り組んでいます。